

単元における評価規準の設定に関する研究(最終報告)

— 関心・意欲・態度を育てるために —

森本タエ¹ 渡辺良勝²

現在、児童・生徒に「生きる力」を育成するために、学習指導の充実が求められ、学習評価を踏まえた授業づくりが進められている。本研究では、「関心・意欲・態度」の観点に重点を置き、妥当性・信頼性の高い学習評価を行うための手立てを探った。研究1年目に作成した「学習評価計画表」に基づき、授業参観や聞き取りを行った結果、単元を見通し、目標を明確にして授業づくりを行うことが有効であることが分かった。

はじめに

平成21年に文部科学省委託調査「学習指導と学習評価に対する意識調査」が実施され、全国の小・中・高校の教員及び保護者に児童・生徒の学習指導と学習評価に関する意識調査が実施された。そして、平成22年1月に「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」(財団法人日本システム開発研究所 2010 以下「調査報告書」という。)がまとめられ、「観点別学習状況の評価を円滑に実施できているか」の問いに対し、特に「関心・意欲・態度」、「思考・判断」に関する評価において、「そう思わない」、「あまりそう思わない」と回答した教員の割合が高い数値を示した。

平成22年3月には、中央教育審議会において「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(以下、「報告」という。)がまとめられ、学習評価を通じて学習指導の充実を図ることが示された。また、「教育振興基本計画」(文部科学省 2013)において、「変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、『生きる力』を一人一人に確実に身に付けさせることにより、社会的自立の基礎を培う」ことが、「主として初等中等教育段階の児童生徒等を対象にした取組」として挙げられている。学習指導要領においても、「生きる力」の育成を実現できる授業の実践を行うことが大切であることが示されている。

神奈川県では、学習評価について理解を図る取組として、平成24年3月に、リーフレット「確かな学力を育てるために — 学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ —」が作成され、教職員と保護者に配付された。そして、平成25年3月には、授業づくりや学習評価の更なる充実に向けて、「リーフレット解説編」が作成され、県内の公立小・中学校の全教員に配付された。このように、国や本県で、学習評価を踏まえた授業づくりを定着するための取組が進められてきている。

そして、平成26年に本県の教員の学習評価に対する

意識や課題を具体的に把握することを目的とし、総合教育センターにおいて、「学習評価に関するアンケート」を実施した。その結果、『「関心・意欲・態度」の評価をする際、難しいと感じることがある』の設問に、「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」と回答した教員の割合が、小学校で83%、中学校で73%と高い数値を示した。そして、教員から「関心・意欲・態度」の学習評価に難しさを感じる理由について、「評価のための情報を収集・分析する時間がとれない」、「評価の方法がよく分からない」などが挙げられた。また、教員が児童・生徒を評価する際に見取る方法については、「児童・生徒が記述した、レポートやノート、ワークシートの内容」と回答した割合が最も高い数値を示している。しかし、具体的にレポートやノート、ワークシートのどのような内容を見取っているのかの設問には、「指定した分量を書いているか」、「分量を多く書いているか」、「板書してあるものを全て書いているか」などの回答があった。このことから、「関心・意欲・態度」を見取る評価の方法は適切であるが、見取っている内容は、学習指導要領に示された目標に照らして行われていないことが分かった。また、「書かれた分量」という結果のみで見取っている傾向があり、このことから、評価が指導にいかされていないことが考えられる。

そこで、本研究では、課題が見られた「関心・意欲・態度」の観点に重点を置き、学習評価を踏まえた授業づくりを行うための手立てを追究することにした。

また、本県全体で学習評価に関する課題を共有するため、神奈川県教育研究所連盟(以下、「県教連」という。)加盟機関との連携により研究を推進し、研究の成果を広げることとした。

本稿は、平成26・27年度の2年間にわたる研究の取組と成果をまとめた最終報告である。

研究の目的

平成17年に中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像(答申)」において、「これからの時代は『知識基

1 教育課題研究課 指導主事

2 教育課題研究課 主幹兼指導主事

盤社会』である」と示された。そして、これからの社会を生き抜くためには、「自ら学び、考え、行動する力」である「生きる力」の育成が必要であるとされた。この「生きる力」は、1単位時間の授業だけで身に付くものではなく、中・長期的に育成されるものである。そして、児童・生徒の「生きる力」を育成においては、「児童・生徒に身に付けさせたい力」が定着しているかどうかを、教員が見取るための評価規準が重要である。

そこで、本研究は、単元における評価規準を明確にすることにより、学習評価の妥当性や信頼性を高め、学習評価を踏まえた授業づくりを推進するための具体的な手立てを見いだすことを目的とした。

研究の内容

1 研究テーマについて

(1) テーマ設定の理由

現在行われている学習評価は、国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所 2014 以下、「参考資料」という。)において示されている、「学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価(目標に準拠した評価)」に基づいて行われている。この目標に準拠した評価を着実に実施するためには、「各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導の狙いが明確になっている必要がある」と示されている。この「学習指導の狙い」を実現した具体的な児童・生徒の姿を想定したものが評価規準である。評価規準を明確にすることで、学習評価の着実な実施につながる。そこで、研究テーマを「単元における評価規準の設定に関する研究」とした。

また、「関心・意欲・態度」の学習評価は「参考資料」において、「他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素」と示されている。しかし、「関心・意欲・態度」の評価内容に対する理解が不十分であることや見取る方法に難しさを感じていることなどの課題が見られる。そこで、サブテーマを「関心・意欲・態度を育てるために」とし、授業づくりの手立てを考えることとした。

(2) 「関心・意欲・態度」の学習評価の考え方

「関心・意欲・態度」の学習評価の考え方については、「報告」の「4. 観点別学習状況の評価の在り方について」において、次のように示されている。

各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの

「関心・意欲・態度」の学習評価は、児童・生徒が既に身に付けている力を評価するのではない。学習内容において、児童・生徒に身に付けさせたい「関心・意欲・態度」の力を設定し、ねらいを持って育て、育

った力を評価するのである。決して挙手の回数や忘れ物の有無、授業の取組や学習規律等のみで判断するものではない。

(3) 本研究の学習評価の考え方

学習評価については、「報告」において「観点別学習状況の評価は、指導要録に記録するためだけでなく、きめの細かい学習指導と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、日常の授業においても適切に実施されるべきものである」と示されている。観点別学習状況の評価の実施により、「記録に残す評価」だけを行うのではなく、授業中に「児童・生徒に身に付けさせたい力」が定着しているか見取り、評価したことを次時以降の学習活動にいかす「指導にいかす評価」も行うとされている。学習評価を踏まえた授業づくりの手立てを追究する本研究においては、学習評価を「指導にいかす評価」と位置付けた。

2 2年間の研究の概要

(1) 研究1年目の取組

研究1年目の平成26年度は、現在行われている目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価について、実施状況や調査内容を把握、分析して課題を整理した。

また、本県の教員の学習評価に対する意識や課題を具体的に把握することを目的とし、「学習評価に関するアンケート」を実施した。県教連加盟機関の協力を得て、鎌倉市、愛川町、平塚市の教育研究所に依頼し、小・中学校42校(762名)で、教員の学習評価の実態調査を行った。そして、結果の集計、分析を行い、学習評価の現状や実態を把握した。その結果、「関心・意欲・態度」の見取りに難しさを感じていることや、評価の内容が曖昧になっていることなどの課題が明らかになった。また、単元の終わりのみで「児童・生徒に身に付けさせたい力」が付いたかどうかを評価する傾向があることも分かった。

そして、学習活動の様子から学習評価の現状を把握することを目的として、鎌倉市立深沢中学校(以下、「深沢中学校」という。)と愛川町立愛川中学校(以下、「愛川中学校」という。)の協力を得て、授業参観や研究会での指導・助言を通して、情報収集を行った。

これらの取組から得られた情報を基に、リーフレット「学習評価を踏まえた授業づくりのために」を作成し、県内の公立小・中学校に配付した。リーフレットには、「関心・意欲・態度」の学習評価を行うときに難しさを感じている要因を3点に整理し示した。

- 何を評価するのかという「学習評価の内容」が曖昧である。
- いつ評価するのかという「学習評価の場面」が曖昧である。
- 具体的にどのように評価するのかという「学習評価の方法」が曖昧である。

そして、この3点を踏まえ、単元を通して授業づくりを行う具体的な手立てとして、「学習評価計画表」を作成した。ねらいや構成等の詳細は後述する。

(2) 研究2年目の取組

研究2年目となる平成27年度は、深沢中学校、愛川中学校に加えて、愛川町立半原小学校（以下、「半原小学校」という。）と愛川町立田代小学校（以下、「田代小学校」という。）2校の協力を得た。1年目に作成した「学習評価計画表」を使用した授業づくりを提案し、指導案検討や授業参観、研究会を通して、学習評価を踏まえた授業づくりの現状についての情報収集や指導・助言を行った。

研究を進める中で、「関心・意欲・態度」を育てる授業づくりを行うためには、単元目標を明確にすること、教員が単元の見通しを持って学習評価の「観点」から授業づくりを行うことが重要であると考えた。また、児童・生徒においても、見通しを持って学習を行うことや学習の振り返りを行うことが重要であることを見いだした。「平成27年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」（文部科学省 国立教育政策研究所 2015）においては、各教科の学習の中で振り返りを行うことで、判断の根拠を明らかにすることや、表現することがよりの確かな説明になることなどが考えられると示されている。これらのことから、児童・生徒が使用する「学習振り返りシート」を作成した。

次に、2年目の取組の詳細について述べる。

3 学習評価の妥当性や信頼性を高める手立て

(1) 学習評価計画表

ア ねらい

「学習評価計画表 例①」（第1図）は、「授業をする教員」（以下、「授業者」という。）が、単元に入る前に、見通しを持って単元構想するための作業用シートである。「児童・生徒に身に付けさせたい力」を、単元を通してどのように積み重ね定着させるかという学びの過程を、授業者が意識することをねらいとしている。

イ 構成

構成は、次のとおりである。

- 上段に、「単元名（題材名）」と「単元目標」の記入欄を設定した。
- 中段に、「単元の評価規準」の記入欄を設定した。
- 下段に、「単元の流れ」の記入欄を設定した。

下段の「単元の流れ」の構成は、次のように考える。

- 評価の「観点」を設定する。
- 「観点」から、目標を実現した「具体的な子どもの姿」を設定する。
- 「具体的な子どもの姿」にするための「学習活動」を設定する。
- 「児童・生徒に身に付けさせたい力」が定着したかを見取る「評価方法」を設定する。

学習評価計画表				【教員用】
単元名		場面の様子に着目して読み、登場人物の気持ちを想像しよう「一つの花」		
単元目標		場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。		
単元の評価規準		記入手順③		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
登場人物の人物像、時代背景などを捉えることで物語に関心を持っている。 登場人物の心情の変化を読み取り物語の内容に迫る楽しさを感じながら、文章を読もうとしている。	出征の前後や戦争から十年の年月が過ぎるなど、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の心情や情景の変化などについて、叙述を基に想像して読んでいる。	「一つだけ」という言葉には、登場人物や作者の思いを表す働きがあることに気づいて、文章を読んでいる。		
単元の流れ				
時	観点	具体的な子どもの姿	学習活動	評価方法
1	読	教科書の文章や資料から時代背景を捉えることができる。	初発の感想を書く。	点検
2	読	全文の大まかな流れを捉えることができる。	場面の様子や流れを捉えながら通読する。	確認
3	読	戦時下の生活の厳しさを読み取ることができる。	ノートに戦時下の生活について書く。	点検
4	読	お父さんの会話文から、ゆみ子に対する気持ちを読み取ることができる。	ノートにゆみ子に対するお父さんの気持ちを書く。	点検
5	関読	出征前のお父さんの様子と周りの様子を対比して、お父さんの気持ちを考えることができる。	ノートに周りの様子との対比から分かる、お父さんの気持ちを書く。	点検
6	読	一つの花をゆみ子に渡す前と後のお父さんの気持ちが変化した理由を考えることができる。	ノートにお父さんが最後に笑った理由を書く。	点検
7	読	第一場面とゆみ子の暮らしが、時代の変化に気付くことができる。	ノートに場面を対比し、変化した様子を書く。	点検
8	関言	作品に込められた作者の思いを捉えることができる。	ノートに「一つだけ」に込められた作者の思いを書く。	分析
9	読	ゆみ子への手紙を書くことができる。	ゆみ子への手紙を書く。	確認
10	読	手紙を読み合うことで、自分の書いた手紙の特徴が分かる。	手紙を読み合う。 感想を交換する。	分析

第1図 学習評価計画表 例①

ウ 記入手順と使用方法

記入手順は、次のとおりである。

- ①「単元名（題材名）」を記入する。
- ②学習指導要領及び学習指導要領解説の目標や内容、教科書の内容、児童・生徒の実態などを踏まえて、「単元目標」を設定し記入する。
- ③「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして、単元の評価規準を設定し記入する。
- ④「児童・生徒に身に付けさせたい力」が定着した、単元の終わりの目標を実現した「具体的な子どもの姿」を設定し記入する。
- ⑤単元の終わりの「具体的な子どもの姿」にするための、学習活動を積み重ねる単元の流れを記入する。

作成した「学習評価計画表」の使用方法を、次のように整理した。

- 「学習評価計画表」を基に授業を行う。
- 児童・生徒が目標を実現した「具体的な子どもの姿」になっているか見取り、評価する。
- 児童・生徒が目標を実現していないときは、目標を実現するように手立てを講じる。
- 児童・生徒の実態に合わせて、次時以降の学習活動を検討し、必要に応じ学習内容を変更する。

エ 期待される効果

「学習評価計画表」を使用することで、次のような効果が期待できる。

- 常に単元目標や本時目標、評価規準を意識することにより、学習評価を踏まえた授業づくりを行うことができる。
- 目標を実現した「具体的な子どもの姿」を中心に、「単元の流れ」を構想することにより、児童・生徒の実態に合った授業づくりを行うことができる。
- 「関心・意欲・態度」の観点は、他の観点と同様、学習活動で「児童・生徒に身に付けさせたい力」であることを、授業者が意識できる。
- 各時間に見取る評価の「観点」を明確にすることで、「関心・意欲・態度」の観点と他の観点の関わりが明確になる。

(2) 学習振り返りシート

ア ねらい

「学習振り返りシート 例①」(第2図)は、児童・生徒が1単位時間の授業の最後に、学習を通して分かったことや感じたこと振り返り、記入するためのシートである。「学習振り返りシート」のねらいは3点ある。1点目は、児童・生徒が毎時間の本時目標を確認することで、見通しを持って学習に取り組むことである。2点目は、児童・生徒が、自身の学習の振り返りをすることである。3点目は、授業者が、児童・生徒の学習への取組状況や関心、意欲の変容を見取り、授業改善につなげることである。

イ 構成

構成は、次のとおりである。

- 上段に、「単元名(題材名)」と「単元目標」の記入欄を設定した。
- 「本時目標」の記入欄を設定した。
- 児童・生徒が記入する、「今日の学習で分かったこと・感じたこと」を設定した。

ウ 記入手順と使用方法

記入手順は、次のとおりである。

- ① 「学習評価計画表」を基に、「単元名(題材名)」、「単元目標」を記入する。
- ② 「学習評価計画表」を基に、「本時目標」を記入する。

「本時目標」は、児童・生徒が見通しを持つために、単元の初めに書くことが望ましい。しかし、各教科の特性や児童・生徒の実態によって、1単位時間の初めや途中で追記しても良いこととした。また、「学習振り返りシート」の使用方法を、次のように整理した。

- 児童・生徒は、「今日の学習で分かったこと・感じたこと」を1単位時間の終わりに記述する。
- 授業者は、児童・生徒の記述内容を確認し、評価する。

児童・生徒は「今日の学習で分かったこと・感じた

こと」を、「本時目標」と照らし合わせながら記入する。授業者は、児童・生徒が「本時目標を実現しようとしているか」、「前時までの記述を振り返り、それらを踏まえて記述しているか」、「学習した内容に対する関心・意欲が表れているか」などを見取り評価する。授業者は、児童・生徒の記述に対し、コメントの記述や下線を引くなどすることで評価した内容を伝える。

学習振り返りシート 【児童用】		
単元名：場面の様子に着目して読み、登場人物の気持ちを想像しよう「一つの花」		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 記入手順① 単元目標 場面のうつかりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化や場面の様子について、文章に書いてあることをもとに想像して読むことができる。 </div>		
単元の流れ		
時	本時目標	今日の学習で分かったこと・感じたこと
1	「一つの花」の...の様子が分かる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記入手順②</div>	
2	物語の大きさが...の大きさが分かる。	
3	戦争のころの生活の様子が分かる文章を見付けることができる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 児童・生徒が記述する。 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 10px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 教員が「コメントを記述する」等、評価する。 </div>
4	お父さんの会話文から、ゆみ子に対するお父さんの気持ちを考えることができる。	
5	出せい前のお父さんと周りの様子をくらべて、お父さんの気持ちを考えることができる。	
6	お父さんの気持ちの変化の理由を文章をもとに考えることができる。	
7	第一場面と第五場面をくらべて、お母さんとゆみ子の暮らしの変化が分かる文章を見付けることができる。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 教員が「コメントを記述する」等、評価する。 </div>
8	「一つの花」に込められた作者の思いを考えることができる。	
9	ゆみ子への手紙を書くことができる。	
10	手紙を読み合うことで、自分が書いた手紙と同じところやちがうところを見付けることができる。	

第2図 学習振り返りシート 例①

エ 期待される効果

「学習振り返りシート」を使用することで、次のような効果が期待できる。

- 児童・生徒は、単元でどのような力を身に付けるのか意識できる。
- 児童・生徒は、1枚のシートに記述することで、振り返りを習慣付けることができる。
- 児童・生徒は、自分自身の育ちを自覚できる。
- 授業者は、児童・生徒の育ちが分かる。
- 授業者は、児童・生徒の記述から、つまずきや学習内容への関心・意欲などを把握できる。
- 授業者は、次時以降の授業内容を検討し、授業改善につなげるることができる。

4 学習評価を踏まえた授業づくりの事例

本稿では、調査研究協力校における「学習評価計画表」と「学習振り返りシート」を使用した学習評価を踏まえた授業づくりの事例から、小学校の「国語科」と中学校の「数学科」の事例の一部を紹介する。

(1) 小学校国語科(第2学年)の事例

ア 単元名(教材文名)

登場人物に宛てたお手紙を書こう(「お手紙」)

単元名：登場人物に宛てたお手紙を書こう「お手紙」

単元目標
 ・場面の様子を登場人物の行動に気を付けて読み、想像を広げながら読んでいる。
 ・場面の様子・行動・挿絵の表情から想像したことや考えたことを書くことができる。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語の世界に興味を持ち、登場人物の気持ちについて想像を広げながら読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子を登場人物の行動に気を付けて、想像を広げながら読んでいる。 文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめている。 場面の様子や登場人物の気持ちを感じ取りながら、登場人物に宛てた手紙を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語との関係に注意して読んでいる。

単元の流れ

時	観点	具体的な子どもの姿	学習活動	評価方法
1		全文を読んで、学習の見通しを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 手紙をもらった経験を話合う。 教材文に興味をもって話合ったり聞いたりする。 初発の感想を書く。 	点検
2	言	分からない言葉の意味を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉の意味を友達と話し合いながら、確認する。 	確認
3	読	登場人物の性格や特徴を掴み、がまくんとかえるくんの会話を確認することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の性格や特徴について話し合う。 がまくんとかえるくんの会話を確認する。 	点検
4	読	物語を4つの場面に分け、構成を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵や場所に目指して場面を分ける。 ①玄関前 ②かえるくんの家 ③がまくんの家 ④玄関の前 登場人物の様子について話し合う。 	点検
5	読	二人の会話を音読することを通して、二人が悲しんでいる気持ちを感じ取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら読む。 二人に掛けたい言葉をワークシートに書く。 	点検
6	読言	2の場面を音読することを通して、かえるくんの気持ちを感じ取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんの行動をワークシートに書く。 かえるくんに掛けたい言葉をワークシートに書く。 	点検
7	読	3の場面（前半）を音読することを通して、二人の気持ちの違いに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんとがまくんの行動や会話文から二人の気持ちを考える。 がまくんとかえるくんに掛けたい言葉をワークシートに書く。 	点検
8	読	3の場面（後半）を音読することを通して、がまくんの気持ちの変化に気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> がまくんの気持ちが変わったところはどこか考える。 がまくんに掛けたい言葉をワークシートに書く。 	点検
9	読関	1の場面と4の場面の挿絵を比べる活動を通して、二人の「幸せな気持ちに」について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1の場面と4の場面の挿絵の表情を比べて、二人の幸せな気持ちに気付く。 二人はどんな話をしているのか、考えて書く。 	点検
10	読関	登場人物にお手紙を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> がまくん、かえるくんのどちらかに宛てた手紙を書く。 	分析
11	関	書いた手紙を気持ちを込めて読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 書いた手紙を発表し合う。 	分析

※下線は総合教育センター

第3図 学習評価計画表 例②

イ 単元目標

- ・場面の様子を登場人物の行動に気を付けて読み、想像を広げながら読んでいる。
- ・場面の様子・行動・挿絵の表情から想像したことや考えたことを書くことができる。

ウ 国語への関心・意欲・態度

物語の世界に興味をもち、登場人物の気持ちについて想像を広げながら読もうとしている。

エ 「学習評価計画表」から見られる単元構想

「学習評価計画表 例②」（第3図）を見ると、「国語への関心・意欲・態度」の評価規準では、単元の始めに「物語の世界に興味」を持ち、学習を積み重ねることにより、児童が「想像を広げながら読もう」とするよう構想している。このことは「関心・意欲・態度」の学習評価を9、10、11時間目に設定していることから、授業者の意図が分かる。また、9時間目は、8

学しゅうふりかえりシート		名前
たんげん名：かえるくんやがまくんにお手紙を書こう「お手紙」		
たん元目ひょう かえるくんやがまくんのしたことや思ったことを考えて読むことができる。		
たん元のながれ		
時	きょうのめあて	きょうのべんきょうで分かったこと・気づいたこと
1	「お手紙」を読んで、考えたことや思ったことを書くことができる。	がまくんが一回もお手紙をもらったことがないから、かえるくんがお手紙をあげたから、二人はすごくなかよしだなあと思いました。
2	分からないことばのいみを知る。	親あいのいみが分からなかったけど、親あいのいみは、なかのよさをかんじているといういみがはじめて分かりました。
3	とうじょうじんぶつのせいにかくやとくちょうが分かる。	がまがえるくんはとってもやさしいなあと思ってたけど、すなおなせいにかくもあるけど、じつは、めんどくさがりやだとお手紙を読んでからはじめて分かりました。
4	四つのばめんにおはなしのながれが分かる。	やっぱり四つのばめんにおはなしのながれも分かるから読みやすいのが分かりました。
5	二人のしたことが分かり、それぞれの気持ちを考えて読むことができる。	スイミーのときみたいにひさしぶりにお手紙を書いたのでたのしかったです。あと、じぶんが読んでると、がまくんとしゃべっているみたいのが分かりました。
6	かえるくんのしたことが分かり、気持ちを考えて読むことができる。	かえるくんががまくんにお手紙を書いたのがすごくやさしいなあと思いました。
7	二人のしたことが分かり、気持ちを考えて読むことができる。	かえるくんががんばっている気持ちが伝わりました。
8	手紙をまつ二人の気持ちを考えて読むことができる。	がまくんがお手紙もらったことないから、お手紙きくのがうれしかったのかなあと思います
9	手紙がとどいたときの二人の気持ちを考えて読むことができる。	もうがまくんの手紙がとどいたときは、グゴグゴとわらっていたんじゃないかなと思いました。
10	がまくんやかえるくんに手紙を書くことができる。	じぶんが思ったことを、はっきりとぜんぶ言えたから楽しかったうれしかったです。
11	気持ちをこめて書いた手紙を読むことができる。	がんばってというところは、強めに読んだりくふうしてみたけど、やっぱりものたりないから、またこういうきかいがあればなと思いました。

※下線は総合教育センター

第4図 学習振り返りシート 例②

時間目までの学習活動で、がまくんとかえるくんの特徴を捉え、会話や行動から二人の気持ちを考えている。それを踏まえ、10、11時間目は、がまくんやかえるくんに手紙を書き、気持ちを込めて読むことで、二人に対する児童の思いを表出させるように構想している。

オ「学習振り返りシート」による評価

本単元で児童が記述した「学習振り返りシート 例②」（第4図）から、目標を実現した「具体的な子どもの姿」について考察する。

1時間目から3時間目を見ると、この児童は、「きょうのめあて」を実現したかどうか意識していることが分かる。

9時間目では、8時間目までの学習で、がまくんの気持ちを考えたことを踏まえて、がまくんが笑っている様子を想像を広げながら読んでいる。9時間目の記述だけ見ると想像で記述しているように見える。しかし、前時までの記述を確認すると、叙述を基に二人の気持ちを捉えており、9時間目は、それらを踏まえて

想像を広げて読んでいると捉えることができる。

10時間目では、自分の思いを「はっきりとぜんぶ言えた」ことへの喜びを記述している。前時までは、物語の内容を中心にした記述であった。それが、単元の学習に対する自分自身の思いの記述へ変容していることが捉えられる。

11時間目では、自ら考えた読み方をしようという態度が見られる。そして、その読み方について「やっぱりものたりない」と記述している。自分自身の学習活動の振り返りをしていると捉えられる。そして、「またこういうきかいがあればな」と、次の学習への意欲へつながる記述がされている。

日々の学習活動により、児童は変容している。しかし、授業者が一人ひとりの児童の変容を授業中に見取りのみで把握することは難しい。「学習振り返りシート」は、授業者が児童の様子を振り返る手立てとなり、児童の変容を捉えるためには丁寧に確認する必要がある。

学習評価計画表		【教員用】		
単元名：二次方程式				
単元目標 <ul style="list-style-type: none"> 二次方程式の解の意味や解く方法を理解する。 解の公式を理解して二次方程式を解くことができる。 具体的な問題で数量の関係をとりえて二次方程式をつくり、問題を解決することができる。 				
単元の評価規準				
数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などに ついての知識・理解	
・二次方程式の解の公式に興味を持ち、その導き方を考えたりそれを用いて二次方程式を解いたりしようとしている。	・具体的な場面で数量の関係を捉え、二次方程式を作ることができる。 ・二次方程式の解の適否について考察することができる。	・解の公式を用いて二次方程式を解くことができる。 ・いろいろな二次方程式を解くことができる。	・二次方程式とその解の意味を理解している。 ・解の公式を用いた二次方程式の解き方を理解している。	
単元の流れ				
時	観点	具体的な子どもの姿	学習活動	評価方法
1	関知	二次方程式がどんなものかを理解できる。	周の長さが24mの長方形をいくつか作り、面積が32㎡になることを考える。	確認
2	技	音声トレーニングを使って、平方根の考え方を理解することができる。	平方根の考えを使って、 $ax^2+c=0$ の形をした二次方程式を解く。	確認
3	技	平方根の考えを使って、二次方程式を解くことができる。	平方根の考えを使って、 $(x+▲)^2=●$ の形を解く。	点検
4	考	$ax^2+bx+c=0$ の形をした二次方程式を、平方の形の式に変形し、解の公式を求めることができる。	比較プリントを使い、二次方程式の解の公式を導く。	点検
5	知技	解の公式を覚え、実際にa、b、cに値を代入して解くことができる。	解の公式を利用して、ノートに二次方程式を解く。	確認
6	技	「 $AB=0$ ならばA=0またはB=0」であることを利用して解を求める。	因数分解を利用して、ノートに二次方程式を解く。	確認
7	考関	<u>いろいろな方法で二次方程式を解くことができる。</u>	<u>二次方程式をどの方法で解けばよいかを考え、ノートに適切な方法で解く。</u>	分析
8	考	方程式の解がそのまま答えになるとは限らない場合があることを理解することができる。	具体的な問題を、二次方程式を利用して解決する。	分析

※下線は総合教育センター

第5図 学習評価計画表 例③

(2) 中学校数学科(第3学年)の事例

ア 単元名

二次方程式

イ 単元目標

- 二次方程式の解の意味や解く方法を理解する。
- 解の公式を理解して二次方程式を解くことができる。
- 具体的な問題で数量の関係をとりえて二次方程式をつくり、問題を解決することができる。

ウ 数学への関心・意欲・態度

二次方程式の解の公式に興味を持ち、その解き方を考えたりそれを用いて二次方程式を解いたりしようとしている。

エ 「学習評価計画表」から見られる単元構想

「学習評価計画表 例③」(第5図)を見ると、1時

間目から6時間目まで、二次方程式を解く方法や特徴の知識を得て、問題を解く技能を身に付けさせるように構想している。そして、7時間目に「いろいろな方法で二次方程式を解くことができる」という、目標を実現した「具体的な子どもの姿」を想定している。7時間目に「関心・意欲・態度」の評価の観点を見取るために、他の観点を踏まえた学習活動の積み重ねが重要であることを授業者は意識していることが分かる。オ 「学習振り返りシート」による評価

本単元で生徒が記述した「学習振り返りシート 例③」(第6図)から、目標を実現した「具体的な子どもの姿」について考察する。

7時間目は、「まず」、「できなかったら」、「偶数だったら」、「奇数だったら」という生徒の記述があり、問題が解けない場合は、次はこの方法で解こうという見

学習振り返りシート		名前
単元名：二次方程式		
単元目標 ・二次方程式の解の意味や解く方法を理解する。 ・解の公式を理解して二次方程式を解くことができる。 ・具体的な問題で数量の関係をとらえて二次方程式をつくり、問題を解決することができる。		
単元の流れ		
時	本時目標	今日の学習で分かったこと・気付いたこと
1	二次方程式がどんなものかを理解する。	解き方が分かれば簡単だけど、めんどくさいなと思いました。また、左辺に移行した時の形が、展開の乗法公式に似ていたので、乗法公式みたいなのがあってそれに当てはめてやるのかなと考えました。
2	平方根の考えを使った解き方をマスターする。①	一応マスターできたと思います。でも、スピードが遅いからもっと早くできるようにならないと思うと、有理化を忘れないようにしないといけないなと思いました。また、展開をしないというのも気を付けられないなと思いました。
3	平方根の考えを使った解き方をマスターする。②	5分間チェックをやってみて、やり方は理解しているのに符号ミス、約分忘れが多く時間も間に合わなかった。慣れるまでは途中式を書いてミスが減らし、数をこなしてスピードも上げられるようにします。
4	$ax^2 + bx + c = 0$ を解く。	解の公式をやる前に問題を解いたときに解けなかったやつが、解の公式を使ってやってみたらすぐに解けて驚きました。公式は少しややこしいけど、慣れれば計算スピードは確実に上がるなと思いました。
5	解の公式を使って解く。	公式に「-」や2乗が含まれていることに気をつけなくてはいけないなと思いました。また、素因数分解や約数もできたらしくなくてはいけないから、公式を使ってやっても気を付けることはたくさんあるから見直しをしっかりとしようと思いました。
6	因数分解を使って解く。	() () の形にしたときに、その中の符号を変えた数が解になっているなと思いました。また、 $x=0$ を書き忘れたりテストで焦ってしてしまったりしそうなので、見直しをしっかりと気をつけなくてはいけないなと思いました。 x で割ってはいけないくて、 x でくくらないのは注意しようと思いました。
7	いろいろな方法で二次方程式を解く。	テストで解の公式で解きなさいなどの指定がなければ、 <u>まず因数分解を考えて、できなかつたら、x の係数を見て、偶数だったら平方の形、奇数だったら解の公式で解こう</u> と思いました。
8	二次方程式を使って問題を解く。	文章問題は、あまり得意ではないけれど、 <u>図を描いてみたり、何を x と置くかをはじめに考えて問題文を読みながら数を書いていったり</u> すると何が何だか分からなくなったりしないのでいいなと思いました。

※下線は総合教育センター

第6図 学習振り返りシート 例③

通しを持っていることが分かる。また、自ら二次方程式を解こうとする意欲が表れている。前時までの学習の「生徒に身に付けさせたい力」が定着していることにより、学習への意欲が高まっていると捉えられる。

次に、1時間目と8時間目の記述を比較する。この生徒は、1時間目は、二次方程式を解くことを面倒であると感じている。しかし、8時間目には「図を描いてみたり」、「問題文を読みながら数を書いていったり」することが、「分からなくなったりしないのでいいな」と記述している。図を描くことや考えながら読むことは、一見面倒な作業のように感じる。しかし、学習を積み重ねることで、図を描くことで分かりにくいことが分かりやすくなることや、考えながら読むことで理

解が深まることという良さに気付いたのである。そして、「文章問題は、あまり得意ではない」けれど、図を描くことなどで「何が何だか分からなくなったりしないのでいいなと思いました」と、この生徒が実際に作業を行って気付いたことを記述している。これまでの学習を、今後の学習にいかしていこうという、生徒の関心・意欲に育ちが見られたと言える。

「平成27年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」において、無回答の割合が高いことが課題として示されている。この生徒のように、初めに考えた方法で問題が解けないときに、他の方法で問題を解こうとする意欲が身に付いていると、無回答の割合は減少すると考える。このような力を身に付けさせるた

めにも、「自ら考えようとする」意欲を適切に見取り、評価することが大切である。

(3) 実践の成果

「学習評価計画表」と「学習振り返りシート」の使用による効果を把握するため、調査研究協力校の教員に、聞き取りや事後アンケートを行った。聞き取りでは、使用による児童・生徒の変容や見取りをいかした授業づくりについて意見を聞いた。事後アンケートでは、「学習評価計画表」を作成した感想や使用した感想について選択と記述で質問した。「学習振り返りシート」については、児童・生徒が使用したことによる効果と教員の授業改善の意識について選択と記述で質問した。そして、次のような意見が得られた。

「学習評価計画表」を使用して

- ・単元を通して、また1単位時間の学習の中で、「児童にどのような力を付けようとしているか」を自分（教員）がしっかり持つことができる。
- ・生徒がどのように学習内容を理解しているかが少しずつ分かってきた。
- ・「授業が思いどおりに進まない」、「何とか生徒が興味を持つ授業をしたいのだが…」といった授業改善の「入り口」として必要なアイテムではないだろうか。

「学習振り返りシート」を使用して

- ・（生徒が）自分の書いた最初の感想を読んで、最初とどう変化したかを、1単位時間の学習を終えたときに書くことができるようになった。
- ・生徒自身が授業の中で得た知識や技能を意識することができた。
- ・生徒のつまずきが具体的に分かった。
- ・授業に対する思いを書いてくれるので参考になった。
- ・毎回記述させることで、生徒が今日の授業で何を理解したかということが具体的に教員側に伝わり、授業改善につながった。すぐに全てを改善するのは難しいが、章ごと、単元ごとの改善をすることができる。

「学習評価計画表」の使用により、授業者が単元を見通すことや単元で「児童・生徒に身に付けさせたい力」を意識できるという効果があった。具体的な児童・生徒の姿を意識することで、評価規準についても具体的に設定することができ、児童・生徒を中心にした授業づくりを行うことができると考える。

そして、「学習振り返りシート」の使用により、児童・生徒が、単元の始めと終わりの記述を振り返ることで、自分自身の変容に気付くことができるという効果があった。また、児童・生徒の気付きやつまずきから授業者の授業改善につながるという効果があった。

しかし、「学習振り返りシート」から捉えた児童・生

徒のつまずきを、次時の授業で全て反映し解決することは容易ではない。事後アンケートの意見のとおり、学習の内容ごとや単元ごとというように、中・長期的に「児童・生徒に身に付けさせたい力」を定着させていくことが大切である。また、児童・生徒に「学習振り返りシート」を記述させることだけで、授業者が児童・生徒の変容を捉えることができるのではない。単元の見通しを持ち、「児童・生徒の身に付けさせたい力」を意識して授業づくりを行ったことにより、児童・生徒の変容を見取ることができたと言える。

児童・生徒の「関心・意欲・態度」の育ちを見取る手立てを見いだしたことは大きな成果である。

(4) 実践から見えた課題

聞き取りや事後アンケートから、次のような意見も得られた。

「学習評価計画表」を使用して

- ・普段は、学習活動から考えてしまうことが多いので評価の観点から考えることが難しかった。
- ・「具体的な子どもの姿」と「学習活動」の差が分かりにくい。
- ・1単位時間で予定した内容ができなかった時の修正をどうすればよいか迷った。

「学習振り返りシート」を使用して

- ・生徒が気付きやつまずきを抱えていても、本人の「書く力」、「表現力」に左右されるのではないか。
- ・ワークシート欄に、生徒に事前に書いてほしい内容を伝える配慮をする必要がある。
- ・記入時間の確保が課題と感じた。

これまで、「児童・生徒に何をさせるのか」という「学習活動」を積み上げる授業づくりを行う傾向があった。そのため、児童・生徒にどのような力を身に付けさせるかという評価の「観点」から、授業づくりを行うことに難しさを感じたと考えられる。学習評価を踏まえた授業づくりは、児童・生徒が目標を実現したかどうかを見取り、授業改善することが大切である。

また、「具体的な子どもの姿」と「学習活動」の違いが分かりづらいことが挙げられた。これは、「学習評価計画表」と「学習振り返りシート」のねらいや構成が明確に伝わらなかったからであると考えられる。そして「学習振り返りシート」を使用する際、児童・生徒のどのような姿を見取り、どのような記述を促すのか、教員が明確なイメージを持っていないという課題が見られた。これらの課題については、『「関心・意欲・態度」を育てるための学習評価を踏まえた授業づくり実践事例集』において、「学習評価計画表」や「学習振り返りシート」のねらいや構成、使用の意図を明確にし、どのような見取りを行うのかなどを記した。

今後も、学習評価を踏まえた授業づくりについて広く発信する必要がある。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究で作成した「学習評価計画表」や「学習振り返りシート」を使用して、教員がねらいを持って、単元を通じた授業づくりを行い、児童・生徒の変容を丁寧に見取することで、妥当性・信頼性の高い「関心・意欲・態度」の学習評価ができることが分かった。

これまで「関心・意欲・態度」は、挙手の回数や忘れ物の有無、「どの授業も熱心だ」という授業への取組の姿勢や学習規律等のみで評価することが多かった。しかし、「学習評価計画表」や「学習振り返りシート」を使用することで、他観点と同様に授業の中で「関心・意欲・態度」の力を児童・生徒に身に付けさせることができるということが分かった。

2 今後の展望

教員は、これまでも「児童・生徒に身に付けさせた力」を定着させるために授業づくりを行ってきた。また、学習評価を通じて学習指導の充実を図ることの大切さも理解している。しかし、それらを行う手立てが浸透しているとは言い難い。

今後は、研究の成果を広く発信することで、学習評価を踏まえた授業づくりを浸透させたい。そして、児童・生徒の「生きる力」を育成する手立てとしたい。

おわりに

これからの変化の激しい社会を生き抜くために、児童・生徒に「生きる力」を育成する授業が、ますます求められるだろう。授業の取組や学習規律で児童・生徒を評価することも大切である。しかし、それが「関心・意欲・態度」の学習評価であるのかということ、教員一人ひとりが再考する必要がある。

また、適切な学習評価を行うためには、児童・生徒の実態を把握することが重要である。そのことにより教員は、目標を実現した児童・生徒の姿を具体的に思い描くことができる。そして、明確な評価規準や適切な学習評価につながる。学習評価とは、「児童・生徒理解」と言えるだろう。

本研究の成果が、これからの授業づくりの視点の一つになり、児童・生徒の「生きる力」の育成につながれば幸いである

なお、研究を進めるに当たり、御指導・御助言を頂いた元横浜国立大学教授の中村祐治先生、御協力頂いた深沢中学校・愛川中学校・田代小学校・半原小学校の皆様感謝の言葉を申し添えたい。

[協力研究所]

鎌倉市教育センター(H26、H27)

愛川町教育開発センター(H26、H27)

平塚市教育研究所(H26)

[調査研究協力校]

鎌倉市立深沢中学校(H26、H27)

愛川町立愛川中学校(H26、H27)

愛川町立田代小学校(H27)

愛川町立半原小学校(H27)

[助言者]

元横浜国立大学教授 中村祐治

引用文献

国立教育政策研究所教育課程研究センター 2011 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 国語)」

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/01_sho_kokugo.pdf (URLは2015年6月取得) p. 7、p. 12

文部科学省 2010 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm (URLは2015年4月取得) p. 11、p. 14

文部科学省 2013 「教育振興基本計画」

http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afielddfile/2013/06/14/1336379_02_1.pdf (URLは2015年12月取得) p. 36

参考文献

神奈川県教育委員会 2013 「確かな学力を育てるためにー学習評価を踏まえた授業づくりの道すじー《リーフレット解説編》」

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417749/> (URLは2014年4月取得)

国立教育政策研究所 2015 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」

<https://www.nier.go.jp/15chousakekkahoukouku/highlights.pdf> (URLは2015年12月取得)

財団法人日本システム開発研究所 2010 「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo3/004/siryo/_icsFiles/afielddfile/2010/02/19/1289879_1.pdf (URLは2014年6月取得)

文部科学省 2005 「我が国の高等教育の将来像(答申)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo0/toushin/05013101.htm (URLは2015年12月に取得)

中村祐治・尾崎誠 (2011) 『『学力の3要素』を意識すれば授業が変わる!』教育出版